

断 酒

みどりの友

発行所 呉みどり断酒会
 事務局 呉市 押込 5-12-25
 渡部 憲方
 郵便番号 737-0915
 電 話 33-5571
 発行人 渡部 憲
 編集代表 石橋 剛
 印 刷 松広印刷製



2013

清盛 像

本年も宜しくお願ひ申し上げます



今年も笑顔で

会長 渡部

憲

明けまして おめでとうござい
 ます。本年もどうぞ宜しくお願ひ
 申し上げます。

昭和五十八年の冬であった。
 「お母さん、憲さんが大変です。
 今までずっと隠してましたが、も
 う私も限界です。憲さんは自衛隊
 で出世してるなんて大嘘です。酒
 ばかり飲んで、いっぱい懲罰を受
 け、船も降ろされ今は門番に立た
 されています。それでも懲りずに
 仕事中も飲み、抜け出して町の方
 でも飲んでるみたいです。それに
 サラ金で沢山お金を借りて……。も
 う、私一人では呉に帰れません。
 お願いですからお母さんも一緒に
 帰って下さい。自衛隊の偉い人も
 家に来られて、話し合いをする予
 定ですので、お母さんも話を聞い
 て下さい。」

呉に向かう汽車の中、妻と母はひ
 と言も話を交わすことはなかった
 らしい。ただひと言、母の口から
 ポツリと「どうしてあの子がこん
 なことになってしまったんかのお
 ……」と。
 呉に帰って来た妻と母。自衛隊
 から家に来た上司二人。話し合い
 の結果、酒を止める事で懲戒免職
 は免がれた。停職処分と同時に私
 の辛い断酒はスタートした。
 四年前、故郷の三刀屋町での中
 国ブロック大会に体験発表させて
 頂いた。89才になった母の姿が、
 会場二階席にあった。「今日の僕
 の決意を母さんの冥土のみやげに
 して下さい。」の声に、笑顔で手
 を振って答えてくれた。
 まだまだ、この息子が心配なの
 か、それとも冥土のみやげがまだ
 不足なのか、今も元気で93才の正
 月を迎えた母である。
 今年も、何のウソも隠しごとも
 ない私達家族の笑顔を、いっぱい
 いっぱい見せてやりたい。

呉みどりヶ丘病院 創立42周年記念 体験発表



山内 鉄平
(本人)

皆様、こんにちは。いつもお世話になってます。呉みどり断酒会の山内鉄平と申します。

本日は、呉みどりヶ丘病院創立42周年記念特院、誠におめでとうございます。この記念すべき日に体験発表させて頂けることを心から感謝いたしております。有難うございます。それでは、体験発表をさせて頂きます。宜しくお願致します。

私は、昭和51年に神奈川県で山内家の長男として生まれました。待ち望んでいた男の子の誕生として多くの祝福を受けたと聞いております。3歳の頃、親の仕事の関係で広島にまいりました。私は幼い頃から少し癖のある負けず嫌いでした。勝てるものはムキになっ

てやるが、負けるものは一切やらない。そんな子供でした。近所の子供達が野球に夢中な頃、野球が得意でなかった私は家で絵を描いたり漫画を読んでいるほうが好きでした。

高校生になり、私は音楽を始めました。才能などまるで無いにも拘わらず、これが何故か認められムキになってやりました。この頃になると、周りの人達は酒も煙草もやっていたのでありますが、私は「かつこ悪い：!!」と感じ、全くやりませんでした。音楽と大学受験をストイックに頑張り、無事に大学にも合格することが出来ました。この頃が人生の中で一番楽しい頃でした。

大学に入学してみると、先輩達が自分の思うような企業に就職しておられなかったり、同級生は意外に遊びながら合格していたということなどを知って、「今までの頑張りは何だったんだらう……?」

と感じるようになりました。これが切っ掛けだったと思われれます。実家にはまったく帰らなくなり、人からは『流川大学に入学したのか：!!』などと言われるようになりました。自分は他人様より酒が飲める：!!と気付いたのもこの頃でした。幼い頃から負けず嫌いもあつてか、私は人と競うように酒を飲んでいました。缶ビールを3本買って、2本で充分酔えるのに『後一本飲んだら、もつと飲めるようになる。強くなれる：!!』と、鍛えるような感覚で飲んでいました。酒を飲んで気が大きくなり、強くなったような気になれる：!!、というのも負けず嫌いな私の心の



創立42周年記念特院にて

隙間を埋めてくれるよい事でした。しかし、大学卒業の頃には飲酒による不祥事もしばしばあり酒は私にとってよいものではなくなっていました。が、当時は『酒を飲めばこのくらいはある事だ：!!』と、捉えていて、親ともよく揉めていました。結果、困り果てた親から実家を追い出されてしまいました。25歳の時の事です。追い出されたにも関わらず『これで好きなだけ飲める：!!』と、浴びるように酒を飲んでいました。この頃には酒癖の悪い私と飲みたがる友人も殆どおらず、私のほうも『お前らなんかと遊んじやるもんか!!』と、独りで飲むことが増えました。自分を振り返るのではなく、友人達を恨みました。素面の時には『独りのほうが気が楽!!』と考えているのですが、酒が入ると考えが変わり寂しくなつて、深夜に電話をかけまくつたり、繁華街をフラフラ徘徊するといった状態になってしまっていました。寂しさから酒を飲み、金で人の心を掴むことなど出来ない知りつつも散財し、いつも経済的に逼迫してしましました。家賃を後回しにすることも多く、大家さんと揉めることもよく

ありました。『何かを変えなくちゃ：ならん』とは感じていて、私はいつしか『ここではない：。何処か：？』に行くことを望むようになります。私が選んだ『何処か：！』とは東京で、27歳の時に引越しをしました。

東京に行ったからといって、孤独であることは変わりませんでした。むしろ、大賑わいの中での孤独はとても辛いものでした。そんな私に手を差し伸べてくれる友人も居たのですが、私は何故かその手を素直に受け取ることが出来ませんでした。『友人達に引き換え、自分は：』と引け目を感じるからでしょうか。夢を叶えて輝いている友人達と私は一緒に居られませんでした。当時の日記に『孤独と闘えない者が、誰と闘えるものか：！』と書かれています。こうでも考えないと気持ちを紛らわすことが出来ませんでした。

そうこうするうちに東京で働いていた会社から、大阪への転勤を命じられます。飲酒問題を抱えている私をどう扱ってよいか会社も困っていたようなのですが『お前等なんかに俺を扱えるもんか』と私は思っていました。そんな私で

したので、二日酔いで朝寝坊した時にそのまま会社を辞めてしまいました。困ったのは、会社名義のアパートを追い出されることでした。実家からは『ホームレスになれ：！』と言われてしまい、どうしていいかわかりませんでした。そんな時によその会社からお誘いがあり、私は一も二もなくこの話に飛び付きました。誘われた会社は、北海道の札幌にある会社でした。

その会社は、アパート・交通費その他諸々を用意して下さるといいう好条件で迎えて下さいました。しかし、そんな好条件の職場を私は一ヶ月ほどでクビになってしまいました。やはり、二日酔いでの出



リカバリー・パレード...!!

勤、朝寝坊・遅刻を繰り返してしまふからでした。札幌に居た頃は断酒会の会長さんと知り合う機会がありました。この頃の私は、自分が何かの精神疾患を患っているのかもしれない：？。とは考えるのですが、アルコール依存症だと考えることが出来ず、入会には至りませんでした。『この時入会をしていたら、人生も違ったものになっていただろうなあ：！』と思うこともあるのですが『独りで何とかしてみせる：』と思っていたので、おそろくどうにもなっていないかただろうとも思います。

この時期には、警察沙汰になることはありませんでした。相も変わらず家賃の滞納はし続けていました。

何時ものように家賃を滞納していた時のことです。ある日突然、部屋の鍵を替えられてしまいました。『やられた：！』この時もどうしていいか、まったくわかりませんでした。外にはガードレールを覆うほどの雪が降り積もっていました。『ここでホームレスになれというのか：？。死ぬと言われたいも同然じゃないか：！』と、そう感じました。手元には、広島ま

での片道交通費にするか：、家賃を払うか：、どちらかに遣えば無くなるくらいのお金しかありませんでした。どうせ死ぬなら地元の上で死のうと、私は広島に帰ることにしました。残った僅かなお金で弁当を買うわけでもなく、ビールと焼酎を買って飲んだのが今でも忘れられません。

泥酔状態でいきなり実家に帰ったのですが、『ホームレスになれ：』と言っていた親は、何故か私を受け入れてくれました。ベロベロで泣きながら思いを語る息子をほっておけなかったのだと思います。私はホッとしました。

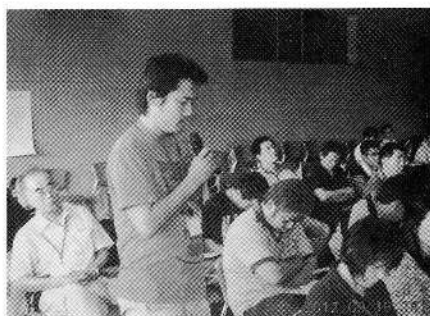
実家での暮らしは、家賃の心配もなく、食事も作ってもらえて、とても快適でした。何ととっても父の酒が飲みたいただけ飲める：！。私にとっては天国のようでした。私にとっては、家族にすれば、また再度（しかも、以前よりも酷い状態）酒地獄のはじまり：。アルコール問題、家族問題の複雑化・深刻化のはじまりでした。おとなしく飲んでいても、私のことが嫌でたまらない母：。父のお酒を夜中に勝手に飲む私：。それを見て、息子に『ゴキブリ』呼ばわりする父：。

じわじわと悪循環の泥沼に私達は嵌まって行くかのようでした。結局、またしても私は実家を追い出されることとなりました。

実家に戻っては追い出される。

そんな生活を繰り返し返していた平成20年の秋、酔って友人と揉めてムシヤクシヤしていた私は、車にクラクションを鳴らされたことに腹を立て、大声を出したり、自転車を投げたりして警察に逮捕されてしまいました。酒が抜けるにつれ『大変な事をしてしまった：！』と感じました。丁度、素面になりかけた頃、母が泣きながら私を迎えに来てくれました。三十過ぎた息子を警察まで迎えに行かなければならない母の思いはいつたいどんなものだったのでしょうか：！

この時の事を思うと、私はいつも申し訳ない気持ちでいっぱいになります。この時の帰り道、母親が私を精神科病院に連れて行くこととするのですが、私は『その病院はアルコール依存症治療をやっていないのではないか』と断りました。この頃には、さすがに自分のことをアルコール依存症ではないのかと思うようになっていました。しかし、アルコール依存症だ



県連研修会で！！

とわかったからなんなんだ。アルコール依存症だから、お酒を飲むのじゃないか：、と考えていました。その頃の私には『お酒をやめる！！』という選択肢はまったくありませんでした。

最後に実家を追い出されてからは、山口県岩国市に住んでいました。実家とは音信不通で、友人からも相手にされず、職場の同僚ともほとんど会話も何もない。そんな毎日を過していました。幼い頃からの負けず嫌いが原因でしょうか：。負けそうなものは最初から何もしない私ですから、この頃には取り組むべきものが何もありませんでした。自信のあるものと言えは酒量だけ：！。やる気の出な

い時間を酒で埋めていつも飲んでばかりいました。たまの友人との待ち合わせは、酔っていてスッポカす。人から嫌われようと、どうでもいい：。むしろ、そういつた状態のほうがアルコールの麻痺作用が効くと、まるでわかつてやっていたかのような：。嫌なことがあればあるほど、お酒が美味しくなる：！。『アイツが悪い。コイツが悪い。ああ、俺はなんて不幸な人間なんだ：！』と、全世界を呪いながら、毎晩独りで朝まで飲み明していました。

『人は一人で生きて行くのは難しい』とはよく聞く言葉ですが、私は実感として感じられます：。それは、とことんの孤独な毎日を過していた私は、平成23年7月、ついに死の淵に立たされることになってしまったからです。体調が優れず、三日経っても二日酔いが治らないので、近所の内科医院に行きました。軽い気持ちで行ったのですが、お医者さんに『貴方、死にますよ：！』と言われて急遽、入院させられることになりました。病院のベットで横になっていたらジワジワと身体が黄色くなり始め、コーラののような尿が出るようになって

り、終いには立って歩くことも出来なくなりました。この時の私のY-GTPは、一万を越えていたとのことでした。身体が辛いのが嫌で病院に行った私でしたが、お酒で身体を壊して早く死にたいと願っていたので『やっとこの時が来たか』と感じました。そうとは知らなかったでしょうが、死にかけているということで両親が駆け付けてくれました。いつも厳しい父親が目涙を浮かべてくれたそうです。

この時、母親から当病院への転院を勧められました。以前に断つた時の『アルコール依存症の治療はしてもらえるのか？』と言う逃げ口上は、アルコール依存症治療病院だとのことで使えませんでした。精神科病院への入院は、とても嫌でした。私にとって、死を選ぶより最悪のどん底以下の選択肢でしたが、『自殺とバレないよう、お酒で身体を壊して死ぬ：』という計画が失敗して手詰りだった私は『もう、どうにでも好きにしゃがれ』と当病院への転院を決意しました。

この決意とは、とりも直さず私にとって敗北宣言以外の何物でも

ありませんでした。負けず嫌いの私にとって敗北を認めることは、とても苦しいものでした。そんな状態でしたので、転院したばかりの頃は、完全に自棄(ひき)で病院の職員さん達には片っ端から、絡んでばかりいました。『落ちぶれた人間がそんなに面白いのか…』などと悪態をついたりしていました。

しかし、そんな私と病院の職員さん達は真剣に向き合って下さいました。少しずつでしたが、私も変わりました。『どん底以下のはずのココで救いを見付けられるなんて…!!』世の中、そう捨てたものじゃないなあ…!!』と、そう感じられるようになりました。或る時、職員さんから『山内さんは、何でも独りで決め過ぎる…!!』と怒られたことがあります。その時は『この人は、何を言っているんだらう…。今までも、いつも独りで生きて来て、これからも独りで生きて行く俺が、自分のことを自分で決めて何が悪い…!!』と、思いました。

そして、この疑問が何故かいつも胸の中にあって本を読む時、人の話を聞く時など、常にその答を探すようになりました。とことん

の孤独しかしらなかつた私にとって、この思いはとても大切なものでした。

私の新しい人生は、敗北を認めることから始まりました。敗北の痛みを知り、失ったことを認める勇気を持つ事が出来るようになりました。今、私は自分の人生に納得をしています。過去の酒害体験ですら『あの頃がなければ、今の私はない…!!』と思えるようになりました。

私は今、もう独りではありませぬ。これも、院長先生をはじめ、病院職員の皆様、みどり断酒会や朋友断酒会の皆様のお陰と心から思っています。本当に有り難うございます。院長先生におかれてはいつまでもお元気で、これからも御指導のほど、宜しくお願い致します。『例会出席と一日断酒あつての断酒継続』。これからも一日を大切にしながら、断酒継続に頑張つてこうと思つてますので、断酒会の先輩・朋友の皆様、今まで同様、お見守り下さり、御指導して下さいますよう、心からお願ひ致します。以上で私の体験発表を終らせて頂きます。御静聴、有り難うございました。

第42回山陰断酒学校

県境の54号線沿いは稲刈りも始まっていた8月31日、教台の車を連らねて、第42回山陰断酒学校の会場に向かった。初参加2名を含む、17名の参加。途中、携帯電話で連絡を取り合いながら無事到着。普段の例会とは異なつた会場の雰囲気と迫力ある発言に初参加の名田・山内さんも圧倒され、感激した様子。先輩に紹介して頂き、各地の会員と名刺の交換をする光景も見られ、緊張感と充実感の中の三日間の研修も無事終了。今回知り会つた朋友達との再会を約束しつつ、笑顔で帰路に着いた。



会場前にて

第42回 県連研修会(江田島)

第42回広島県連研修会が、今年も国立江田島青少年交流の家に於いて、9月15日(土)〜17日(月)の三日間開催された。



朝の集いの風景

当会からは初参加の5名を含む29名の会員・家族が参加。今年も中日には、呉みどりヶ丘病院の療養生三十数名が参加。必死で体験発表をする会員、それを必死で聞いている会員・家族。同じ苦しみ、大同小異の体験の主の発言に耳を傾けていた。

亦、研修の節目節目には、小河弘幸、長尾澄雄、西原一樹先生の講話を頂き、改めて、一日断酒、

例会出席、断酒継続の大切さを参加者全員が考え、再確認させられる機会を与えて頂いた。



楽しみのバイキング

そして、この研修会には他の大会・研修会とは異なった和気あいあいとした家庭的雰囲気会場全体に漂っていて、研修の合間の休憩時間や朝・晩の自由時間にはアチコチで参加者の輪が出来て談笑する声が沸き上っており、寝食を共にして語り合う大切さを痛感させられる研修会でもあるようだ。

あつという間に過ぎた三日間という感が残る何時もの楽しい研修会だったが、この研修会の成果が県連各会の明日に、そして、広島県連の明日に繋がる実り多き研修会であった。

第一回リカバリー・パレード
『回復の祭典』 in 広島

9月22日(秋分の日)、広島市内ハノーバー庭園に集合。我々広島県断酒会連合会も、横断幕、全断連の旗を掲げて、『病気を隠すことにより回復が遅れます。遅れまーす!』『私達はここにいまーす!』などと、大きな声でシュプレヒコールをしながら、広島で一番の繁華街、紙屋町、本通りなどを行進した。

勿論、我々は初めての経験ではあったが、このパレードの様子は早速、テレビ、新聞でも報道され依存症などの精神疾患から回復を目指す我々「断酒会」のアピールにつながったと思う。



元気にシュプレヒコール! (本通り)

呉みどりヶ丘病院
創立42周年記念

第495回特別院内断酒例会

初秋を感じさせる十月二十一日呉みどりヶ丘病院に於いて、三百五十三名の会員・家族、療養生の方達が参加し、創立四十二年記念特院が盛大に開催された。



体験発表者は療養生二名、正会員三名、家族会員一名。当会からは、山内鉄平さんが発表した。その後小河先生の所感、院長先生の記念講演で盛り上がり、長尾澄雄院長先生の益々のご活躍と当院の御発展をお祈りして終了した。

第49回全国(兵庫)大会

神戸市のワールド記念ホールに於て、10月28日(日)、第49回全国(兵庫)大会が、三千六百名余りの全国各地からの参加者を集めて盛大に開催された。

当会も早朝から、貸切りバスを仕立て、会員・家族を含め34名が参加した。

大会は、テーマ『拓けゆく新しい人生』、サブテーマ『新生への旅立ち』に則つとり進行され、断酒人として生れ変わり、これからの新しい人生を開拓し、断酒幸福を追求して行くことの大切さを再確認させて頂いた大会であった。



「飲酒運転追放」街頭キャンペーン

11月9日(金)「断酒宣言の日」今年も、会員、家族12名が、呉駅前集合。三千枚のチラシ紙(ティッシュ)を配りながら、「飲酒運転追放キャンペーン」を行なっております。どうぞなどと呼びかけ



「お疲れさまでした」 呉駅前にて

「何か、新酒の販売かなんかをやられるんですか?」と、老婆が急いで自転車をやつて来た。旗にやたらと『酒』の文字があるのでカン違いしたらしい。(笑) 駅前の客待ちのタクシー運転手さんも、「少し配つてあげるわ」と協力して下さいました。

第17回ふくやま一泊研修会

11月3日〜4日(月)、今年も、福山市の『みろくの里・本館』に於いて、一六〇名の参加者で第17回ふくやま一泊研修会が開催された。当会からは三名の初参加者を含め、八名が参加。



当会の参加者全員で

秋も深まり、木枯らしの吹く中、県外からの多くの参加者の赤裸々な迫力せまる体験談を初めて耳にした初参加の三名も胸を打たれ、考えさせられた様子。 また、いつものことではあるが、今回も夜が更けるまで部屋で談笑したのも、忘れられない思い出になったような気がする。

第22回中国ブロック断酒セミナー

晩秋を感じさせる11月10〜11日、福山みろくの里に於て、第22回中国ブロック断酒セミナーが百七十名余りの会員・家族が参加して開催された。当会からも8名が参加。



セミナーは『これからの断酒会を考える』を統一テーマに、A、Eの5班の分科会にわかれ、各班

のテーマに添って、各地域断酒会の現状や啓発活動の取り組みを報告し、忌憚のない意見交換がされ、後述の【活動宣言】が満場一致で承認された。これから一年間、活動宣言に基づき啓発活動を行なう事を誓い、各々の帰路についた。

【中国ブロック活動宣言】

- 一、断酒会/アルコール依存症のことを一般社会にもっと知ってもらおう。(新入会員増加)
- 二、魅力ある断酒会を目指して全会員で例会そのものの変革を目指そう。(新入会員増加)
- 三、断酒会の中で断酒をするというこの意義と喜びを見出そう。(退会者防止)

平成24年11月11日

第22回中国ブロック

断酒セミナー

第46回酒なし忘年感謝会

平成24年も残りわずかとなった12月5日、恒例の酒なし忘年感謝会がシテイプラザ・スギヤで、呉みどりヶ丘病院院長・長尾澄雄先生をはじめ来賓、朋友の方達の出席を得て、盛大に開催された。

今年も、12名の新会員のうち8名が参加。飲酒時代にカラオケで鍛えた自慢の咽を披露すると、先輩達も負けじと披露!!。普段、お目にかかれない芸達者人、それなりの人と、色取り取りで楽しい時間を過ごした。そして、来年も『例

会出席・一日断酒』を合言葉に頑張ろうと誓い合って幕を閉じた。



第46回酒なし忘年感謝会

寄付者御芳名

(八月度)

NPO法人

- 福山みずほ断酒会 一〇、〇〇〇円
- 呉 大下忠志様 一〇、〇〇〇円
- (十一月度)
- 呉みどりヶ丘病院 六〇、〇〇〇円
- 院長 長尾澄雄様 一〇、〇〇〇円
- 呉 渡部 憲様 一〇、〇〇〇円

感謝箱

三、五三四円

新入会員紹介

●呉市広塩焼一〇一〇一〇一〇一

亀澤貴代子

●呉市仁方本町二二〇一

中本 芳夫

●呉市川尻町西二一六八

住村 博士

●呉市幸町三〇一〇一〇一三〇三

福原 昇

●呉市広文化町一三一九 東宝

ファーストビル二〇林 健太郎

●呉市阿賀北五一一五七七三〇二

矢野 一成

●呉市広三芦一四一三

新川 恵

●呉市焼山西一〇一〇一〇一

高垣 正志

●呉市阿賀北一〇一七一一六

山本 初美

断酒継続おめでとう

☆一年 吉川 幸江 8月20日

☆二年 前田 敏美 10月9日

☆〃 伊藤 康浩 10月30日

☆〃 岩本 秀寛 11月6日

☆三年 鍋山 秀一 8月1日

☆四年 中島 和明 11月29日

行事予定

○1月26〜27日

第36回愛媛県ワンナイト・セミナ一

(愛媛県生涯学習センター)

○2月2日

呉みどり断酒会創立46周年記念例会

(呉みどりヶ丘病院)

平成24年8月度例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	社会会員	院内会員	17-77	合計
土曜例会	5	155	56	25	124	346	60	766
水曜例会	5	142	55		2			199
ブロック例会	1	13	7					20
新会員を囲んで	1	10	4					14
家族の集い	1		9					9
懇談会	1	1						1
特別院内例会	1	25	7					32
全断連東京セミナー	1	1	1					2
第42回山陰断酒学校	1	13	4					17
県連理事会	1	5						5
呉みどり断酒会役員会	1	10						10
合計		375	143	25	126	346	60	1,075

平成24年9月度例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	社会会員	院内会員	17-77	合計
土曜例会	4	123	45	22	96	289	41	616
水曜例会	4	116	50		2			168
ブロック例会	1	15	9					24
新会員を囲んで	1	11	4					15
家族の集い	1		8					8
懇談会	1	1						1
特別院内例会	1	24	8					32
第42回広島県断酒研修会	1	20	6					26
第1回リカバリーパレード	1	5	1					6
呉みどり断酒会役員会	1	8						8
合計		323	131	22	98	289	41	904

○4月14日

第48回中国断酒ブロック(島根)大会併催島根県断酒新生会創立45周年記念

(三刀屋文化体育館アスパル)

平成24年10月度例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	社会会員	院内会員	17-77	合計
土曜例会	4	118	46	20	98	288	45	615
水曜例会	5	136	63					199
ブロック例会	1	11	7					18
新会員を囲んで	1	15	11					26
家族の集い	1		6					6
懇談会	1	1						1
呉みどりヶ丘病院創立42周年	1	27	10					37
第49回全国(兵庫)大会	1	23	11					34
県連理事会	1	4						4
呉みどり断酒会役員会	1	9						9
合計		344	154	20	98	288	45	949

平成24年11月度例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	社会会員	院内会員	17-77	合計
土曜例会	4	127	52	19	93	283	46	620
水曜例会	4	99	50		1			150
ブロック例会	1	14	9					23
新会員を囲んで	1	5	7					12
家族の集い	1		6					6
懇談会	1	1						1
特別院内例会	1	20	7					27
第17回ふくやま一泊研修会	1	7	1					8
飲酒運転追放キャンペーン	1	7	4					11
第22回中国ブロック断酒セミナー	1	5	3					8
県連理事会	1	2						2
呉みどり断酒会役員会	1	8						8
合計		295	139	19	94	283	46	876